



日本集中治療医学会

第53回日本集中治療医学会学術集会
教育セミナー（ランチョン）8

Tigris trialを受けて本邦の PMX-DHPの適応をどう考えるか？

日時

2026年3月5日（木）12:50~13:50

会場

第13会場 パシフィコ横浜 会議センター4F（414+415）

座長

山下 千鶴 先生

藤田医科大学医学部麻酔・集中治療医学講座

演者

数馬 聡 先生

札幌医科大学医学部集中治療医学講座

教育セミナー参加方法

教育セミナー（ランチョン）のお弁当は事前申込制となります

当日券の配布はございませんが、お弁当や座席に余裕がある場合はご入場いただけます

教育セミナー（ランチョン）事前申込期間：

2026年1月26日（月）正午~2月25日（水）※定員に達し次第終了

- ・オンライン参加登録時にご希望の教育セミナー（ランチョン）をご選択ください
- ・ネームカードに申込済セミナー名が印字されますので、入場時にご提示ください
- ・教育セミナー（ランチョン）の事前申込はセミナー開始後無効となります



参加登録はこちらから

血液浄化の気になる

論文紹介中！

東レ急性血液浄化ポータルサイト

[https://www.blood-purification.toray/
medical-personnel/](https://www.blood-purification.toray/medical-personnel/)



Tigris trialを受けて本邦のPMX-DHPの適応をどう考えるか？

札幌医科大学医学部集中治療医学講座

数馬 聡

集中治療においてエンドトキシン血症が強く疑われる場合、エンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) が治療の選択肢として挙げられる。これまで複数の臨床研究において、PMX-DHPによる血圧上昇効果が示されており、臨床において演者もその効果に救われた経験が数多くある。血圧上昇効果はエンドトキシン吸着を機序としたもののみならず、免疫担当細胞から産生されるカンナビノイドの吸着や、血小板の機能が関与している可能性も考えられる。最近の我々の報告において、起炎菌のグラム染色結果別にPMX-DHPの効果をみた場合、グラム陰性菌のみでなく陽性菌を起炎菌とした際にも血圧上昇効果を有し、その効果は2時間の施行よりも24時間の施行がより有意であることを示した。

一方でPMX-DHPの施行による死亡率低下のエビデンスは示されておらず、日本版敗血症診療ガイドライン2024でも「PMX-DHPを行わないことを弱く推奨する (GRADE 2D)」との記載にとどまっている。

しかし、PMX-DHPに関する臨床研究では、対象群の死亡率が高すぎたり (EUPHAS試験)、PMX-DHPの完遂割合が低すぎたり (ABDOMIX試験)、マスクングが完全ではなく、エンドトキシン活性レベルが0.9以上の重症例が含まれている (EUPHRATES試験) など、報告された結果を鵜呑みにできない部分もある。このような面から、本講演前後で発表されるであろうTIGRIS試験は、EUPHRATES試験でのサブグループ解析 ($EAA \geq 0.6-0.9$ の症例において統計学的に有意な生存率の改善) のフォローアップ試験として位置づけられているものであり、PMX-DHPの適応を見直すうえで、一定の見解を示すものになることが期待される。

これまでPMX-DHPの有効性のエビデンスは十分とはいえないものの、集中治療における治療選択肢の一つとして重要であり、本講演では最新の知見を交えながらPMX-DHPの適応を再考察したい。